

Contents

2, 3 20周年記念フォーラム報告

4 ワーカーズ・コレクティブを
すすめるまち川越市

連合会発足20年 分かち合いたすけあう 社会をめざして

市場経済の海を泳ぐ小さな魚のようなワーカーズ・コレクティブ。つながり、力を合わせ、少しずつ仲間を増やしてきました。

一人ひとりが尊重され人間らしく働ける職場を増やし、どんな人にも生きやすい社会を広げることをめざします。



1987年埼玉に最初に誕生したワーカーズ・コレクティブは生協の受託業務を行う事業所でした。それから11年後の1998年10月、埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会が設立されました。会員20団体・300人に成長していました。

つながり力を合わせることで、一つ一つは小さな事業所でも大きな力を作り出すことができます。ワーカーズどうしの情報交換や学び合い、この働き方を社会に広めていくための運動を発信する基地としての役割を担い連合会は始まりました。第1回の連合会総会議案書には当時の雇用情勢を「男女平等の名のもとに実力主義と競争社会を推進し、社会的弱者を排して若者はフリーター化する、勝ち組だけが存在しうる社会を目指している」と危惧し、社会の健全化に地域市民事業の必要性和重要性を訴えています。この20年、グローバル経済の偏重による格差の拡大とともに大きな不況の波や災害を経験し、複雑化、深刻化する経済、雇用状況があり、さらに私たちの不安は大きくなっています。

そのような中で地域の課題をとらえ小さな市民事業を行うことで自分たちの社会を少しでも良くしていきたいと考える仲間たちが少しずつ増えて、現在43団体・会員490名となりました。生協の受託業務事業、仕出し弁当や施設の食事提供、コミュニティレストランなどの食事業、地域福祉の担い手となる生活支援事業や介護保険事業、リサイクル事業、石けんによる清掃事業、企画編集事業など種類も多岐に及んでいます。仲間たちは日々の業務に追われながらもワーカーズ・コレクティブとしてお互いを尊重し、一人一人が経営を担い、地域社会に向き合っています。そしてこの働き方が社会に広く知られ多くのワーカーズ・コレクティブが立ちあがることで、分かち合いたすけあう社会が広がることを望んでいます。

2019年7月には第21回総会を迎えます。連合会は益々社会の健全化に目を向けワーカーズ・コレクティブ運動を進めていきます。

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会
会長 清水悦子

基調講演 自己・他者・世界への基本的信頼をどう育むか 今、若者を理解し、若者と育ちあうために



菅間正道さん



自由の森学園校舎

自由の森学園高校 ^{すがま まさみち} 菅間 正道さん

2月17日に川越市で開催されたフォーラムは「若者の働きやすい社会とは」をテーマに130名の参加がありました。日々若者と向き合う菅間正道さんは、基調講演で現代若者と育ちあうためにどうすべきか話されました。若者が置かれている状況を知り、ワーカーズ・コレクティブの役割を確認する機会となりました。

「若者ことば」から見てくる世界

作家・井上ひさし氏によると、「ことばは世界に区切りを入れる作業」であるという。例えば、イヌイットは雪について何十もの名づけをし、日本では雨や風を細かく分けて名づけている、つまりその共同体にとって生活を根本的に左右するものには丁寧な名付けがされる。現代の若者が「人間関係」や「関係性」について名づけることばはどうだろう。「KY」「友だち地獄」「ヨッ友」「便所飯」「コミュ障」等全般的にネガティブである。この名づけことばが若者の生活の根本を表しているのならば、現代の若者は「自己・他者・世界」と出会い、信頼し、受け入れることに課題を抱えているといえるのではないか。

自己と他者と世界に対する「基本的信頼」をどうつくるか。「この世界は生きるに値する」ということを、どうやって若者と紡いでいけるのか。それは決して一筋縄ではいかないが、まずもって、様々な若者の実存を理解し、彼らの声を丁寧に聴きとることを大事にしなければならない。

基本的信頼のために必要な二つの「あい」

世界との信頼をつくっていく第一歩は他者との出会いからである。出会い、対話することから基本的信頼はつくられるのだが、とどまるところを知らない「学力競争（狂騒・狂走）」により、テストの勝ち負けに追われる日々では、他者を認知し信頼することなど無理だろう。そして、自分づくり、仲間づくりをめぐる困難やネットの氾濫。ネットの発達は一瞬の春の拡散にも、いじめにも作用する。地球の裏側で起きていることを知るツールとしてのネットを否定はしない。要は使い方だが、小学生が「いいね」の数を気にする

時代となっている今、丁寧に言葉を紡ぎ、相手の表情を見ながら関係をつくっていくことが困難な状況にあるのは間違いない。

ではこの状況にどう向き合うか？大事なことの一つに、二つの「あい」がある。一つは、学びあい、支えあい、聴きあい、かわりあい、活かしあい…の「あい」である。ともに「～しあう」という相互交渉と互惠の関係である。もう一つの「あい」は、〈I=私〉、一人称の「あい」である。その他大勢に埋め込まれない、他者に流されず自分の意見を言える〈私〉。この二つの「あい」を持つことで「基本的信頼」は育っていくと考える。

ワーカーズの現場も

若者を受け止め、こたえる場所になる

自分のことばを持つということは、自分の認識と意見をしっかり持つことにつながる。子どもが豊かなことばを獲得していくためには、丁寧に聴きとられるなどのゆたかな相互応答経験が大事である。人が人として育っていくうえで、人は欠かせない。自分が発したことばに応答してくれる誰かがいることが大切なのである。

ではそういう環境をどうつくったらよいのだろうか。青年期・働く現場での「基礎経験」の再構築としてワーカーズの働き方も、その試みの一つではないかと考える。大きく世界を変えるというより、身近な職場で足元から少しずつこの社会へ風穴を開けることができるのが、ワーカーズなのではないだろうか。

社会問題は人々の簡単な努力や運動では解決しない。今この困難な現代社会を読み解きながら、一人ひとりが潰されないように生きていく教育や雇用の場を探求していきたいと考えている。

若い世代からの発言

少しでも希望といえるものにつなげたい

フォーラムではワーカーズ・コレクティブで働く若い世代からの発言がありました。ワーカーズの良さと課題が報告され、その裏にある実社会の働きにくさが垣間見えました。

人を大切にする職場

一般就労では働きにくいそれぞれの事情を持ち、ワーカーズ・コレクティブに出会った3人の若者たち。発言から見えてくるものは前向きに生きる彼らの姿勢のすがすがしさや、ほほえましさ、そして力強さでした。また、若い世代に限らずいろいろなメンバーと共に働く職場にも、それぞれ工夫が必要です。事業所の姿勢も一人ひとりを大切にしたワーカーズ・コレクティブならではの分かち合いの精神が生きています。「青いそら」と「つどい」は、誰もがともに働く場所となる事業を行うことを設立趣旨にうたい、地域と連携しながら研鑽や工夫を重ねています。「SOU」は事業をすすめながら、いろいろな人と働くためにメンバーどうしで調整するなどの工夫を取り入れてきました。

しかし働く職場に生きがいや働きがいを感じていても、若い世代ならではの課題もあります。

自活していけるようになるには労働対価が上がりないと厳しい。若いママ友からワーカーズはパートなの？契約社員？派遣なの？と聞かれてもどのカテゴリーにも属さないワーカーズの説明は難しい。ワーカーズが社会に認知されていないことによる不便や、社会の経済状況の影響などを感じます。

お互い様の気持ちで無理なく働ける職場であり、みなが経営者として主体的に関わり発言することができるなど、ワーカーズはいろいろな人にとって気持ちの良い職場です。3人の若者の発言は、ワーカーズ・コレクティブという働き方に希望を感じさせるものでした。その魅力を社会に発信し、多くの人認知し関わる足腰の強い組織にすることが必要です。

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会
運営委員 塩野信子

田辺千晴さん

NPO 法人
ワーカーズ・コレクティブ
青いそら（三郷市）
コミュニティレストラン、
生活サポート等



だれでも平等な関係のもとで働くことを目的とした職場に出会い、病気があるが、ともに助け合い働くことができています。今までサポートされる側であった自分が、これからは地域のみなさんが元気でいられるようサポートする側になれたらと思っています。

佐々木志保さん

企業組合つどい
ワーカーズ・コレクティブ
帳合（飯能市）
生協業務受託：カタログ組込



ワーカーズ歴4年目を迎え、長期的な目標をなかなか見つけられていない。この講演で「希望」をもっているか聞かれるとはっきりとは言えない。ワーカーズのことをみんなで話し合い考える場をつくり、目標を共有していく。そのワーカーズの理念を目指すというのが、少しでも「希望」みたいなものにつながったかなと思います。

早川珠紀さん

ワーカーズ・コレクティブ
SOU 企業組合
（さいたま市見沼区）
生協業務受託：配送、事務等



3人の子どもの保育園で預かってもらいながらの就労です。お迎えの時間や急なお休みに配慮してもらい、子どものことをいちばんに心配してくれるあったかい職場。今の職場が大好きです！

若い自分たちがこのワーカーズを無くさないように、いつかは手助けできるように貢献していきたいと思っています。

ワーカーズ・コレクティブを すすめるまち川越市



現在埼玉県内に43団体あるワーカーズ・コレクティブはそれぞれの行政区で事業を通して地域の課題に向き合っています。その行政区の中で川越市は、市民がワーカーズ・コレクティブで起業することの支援を行っています。



市民が起こす 地域の事業に期待

人口35万人の中核市、川越市は都心から30キロメートル圏のベッドタウンであり、近郊農業、流通業、伝統に培われた商工業、豊かな歴史と文化を資源とする観光などで発展した埼玉県有数の都市です。

川越市は、第四次川越市総合計画において、働く人が自ら出資し、運営し、働く、ワーカーズ・コレクティブの設立支援を取り組むべき施策として位置付けています。

2011年には川越市産業振興課と埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会との連携でワーカーズ・コレクティブの講座が開かれ、12名の方が受講しました。2012年からは起業相談会が行われ、2018年度はクラッセ川越にてワーカーズ・コレクティブ講演会も共催されました。埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会がこの8年で受けた起業相談は15組。新たに事業を始めた団体は地域福祉を担う「ワーカーズ・コレクティブま・た・ね」とNPO団体の2件あり、この働き方に希望を見出す方たちはたくさんいます。起業に至るまでの課題は相談者ごとにさまざまです。地域社会のニーズをとらえ、本気で起業を考える相談者には、連合会が根強い伴走支援で設立までを支えます。

川越市にワーカーズ・コレクティブという働き方が広がり、豊かな地域社会が作られていくことを目指し、今後も連携していきます。



ワーカーズ・コレクティブ 講演会、2018年12月 クラッセ川越にて開催

川越市産業振興課とワーカーズ連合会の共催でワーカーズ・コレクティブ講演会「こんな働き方あったんだ！地域に必要な事業を起こし楽しく働く」が、2018年12月クラッセ川越にて開催されました。「地域を豊かにする当事者に」をテーマにNPO法人ハンズオン埼玉の西川正さんが、「お客さん」ではなく当事者として様々な地域の問題に向き合う市民の姿勢の大事さを基調講演で話されました。また、地域の課題を解決する市民事業を行うワーカーズ・コレクティブの事例紹介では、3つのワーカーズ・コレクティブが、一般企業のように利益を優先せずに、自分たちの町を豊かにするための事業を起こし働く意義を伝えました。



川越市 ワーカーズ・コレクティブ 設立個別相談の実施

川越市は、市民の方または市内においてワーカーズ・コレクティブによる起業をお考えの方や興味のある方を対象とした設立個別相談を実施しています。事前予約制で、相談を受ける講師はワーカーズ連合会から派遣されます。詳しくは、同市ホームページまたは下記担当にご確認ください。
(担当)川越市産業振興課 TEL049-224-5934(直通)

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会 情報誌 WAVE66
〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋 1-5-3 ひゅうまんポスト2F
電話/FAX 048-844-0221
E-mail saitama.waakore@gmail.com
HP <http://saitama-workers.com/>

企画編集 広報チーム 1部 ￥100